

農業会議だより

第48号(令和6年3月)発行：一般社団法人佐賀県農業会議

1. 農業委員・農地利用最適化推進委員研修会を開催
2. 農業委員会事務局長会議を開催
3. 農業委員会女性委員研修会を開催
4. 地域の話し合いの活性化に向けたスキルアップセミナーについて
5. 農業委員会職員研修会（目標地図作成）を開催
6. 太良町農業委員会の取り組みについて
7. 佐賀県農業公社による園芸団地の整備・運営支援
8. 農業者年金の加入推進について
9. 全国農業新聞普及推進・全国農業図書紹介
10. 常設審議委員会の結果（1・2月）
11. 行事予定

1. 令和5年度第2回農業委員・農地利用最適化推進委員研修会を開催

佐賀県農業会議（会長：大園敏明）は、地域計画の策定に向けた取組みをより一層推進するため、1月25日・26日に上峰町及び玄海町で「令和5年度第2回農業委員・農地利用最適化推進委員研修会（地域計画の策定に向けた取組推進研修会）」を開催し、約560人が参加しました。

はじめに、一般社団法人全国農業会議所農地・組織対策部の佐藤陽平農地利用最適化担当部長より、農業・農政をめぐる情勢について説明いただきました。「食料・農業・農村基本法」の改正に伴い、食料安全保障の観点から農地の総量確保・適正利用のために農地制度の見直しが予定されていることや、農地を維持するために既に地域計画の取組みが始まっていること、地域計画のポイント等について解説され、地域計画は地域総動員で農地を守るための計画であり、農業者が主体となって話し合いを重ねることが大事だと話されました。

次に、株式会社北山神水川ファームの八段俊一取締役より、標高300～400mの山間部で地域農業・集落を維持するために法人を設立された事例について報告いただきました。専門家による将来の人口予測を実施し、5年後10年後には

既存の体制では農業の維持が難しいと危機感を持った発起人5名を中心に、集落の枠組みを超えた新たな組織づくりに着手。発起人会、世話人会、設立準備委員会による検討体制を作り、7集落の代表者を参集して話し合いを重ね、令和3年に広域組織を設立されました。経営安定のためドローンによる防除や草刈、林業作業の受託も実施して正社員2名を雇用されており、将来的には農地の受け皿として、地域の農地を任せられる組織を目指したいと話されました。



八段俊一取締役



久保喜久男組合長

最後に、川古集落営農組合の久保喜久男組合長より、「次世代が参画しやすい持続可能な営農体制づくり」を組織理念に掲げ、地域ぐるみで農地を守るために取り組まれている事例について報告いただきました。令和2年に「地域将来を考える会」を発足。意向調査の結果を反映した将来地図を元に話し合いを実施し、同時に「農地を守る5か条」を作成・全戸周知。令和3年には機械の所有状況や稼働可能年数の調査を実施し、作業受託や団地化の見通しを立て、令和4年には営農情報や猪被害の共有・利便性向上のためにZ-GISを導入。また、地元の消防団員に農作業に協力できるか調査を実施し、賛同を得た若手5名に研修を実施、作業班のオペレーターに参画してもらうなど、将来に向けた段階的な仕組みづくりについてお話いただきました。

参加した委員からは、「我々も危機意識を持って地域のことを考えなければならない。」「これからは担い手に任せただけでなく、地域ぐるみの農業を目指さないといけない。」「地域を守るために話し合いを行い、実行する。それが地域計画の趣旨であり、着実に取り組まれた事例で参考になった。」など、前向きな意見が多くみられました。

2. 農業委員会事務局長会議を開催

佐賀県農業会議（会長：大園敏明）は、2月9日（金）に佐賀市で市町農業委員会事務局長会議を開催しました。内容は以下のとおりです。

- (1) 農業委員会を取り巻く情勢について
- (2) 地域計画の策定に向けた取り組み状況について
- (3) 令和6年度農業委員会関係予算について
- (4) 会計検査の状況について

- (5) 農業委員会サポートシステムについて
- (6) 女性委員の登用促進について
- (7) 農業会議の役員改選について
- (8) 令和6年度会議・研修会等の計画案について

地域計画の策定に向けた取り組み状況について、江北町、白石町、鹿島市、嬉野市より報告がありました。江北町ではモデル地区の地域計画のとりまとめの段階であることや白石町からはアンケート結果の状況報告がありました。また、鹿島市ではみかん園が中心の地区で話し合いを実施したこと、嬉野市では目標地図の作成に係るデータ入力完了したことなどの報告がありました。

地域計画の策定については取り組みに温度差がありますが、協議の場の段階になっている市町が少しずつ増加しています。地域計画が令和7年3月までにすべての市町で策定できるよう農業委員・推進委員の地域での活動が期待されています。

3. 農業委員会女性委員研修会を開催

佐賀県農業委員会女性協議会（会長：岩橋久美）は2月24日、佐賀市で農業委員会女性委員研修会を開催し、女性委員31名が参加しました。

最初に農地法・基盤強化法等の概要について、基盤強化法での農地の賃借と農地中間管理事業による賃借が一本化することや下限面積要件の撤廃等も含めて農業会議より説明しました。



続いて、令和6年11月20日・21日に佐賀県で開催予定の九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会について、現時点での開催案を農業会議より説明後、研修会の開催に向けて、参加した女性委員同士で意見を出し合いました。

その後、農業者年金基金の黒田夏樹理事長より農業者年金の加入推進について説明いただきました。

研修会に参加した女性委員からは、「農地法について改めて知ることができた」、「農業者年金の説明は分かりやすく、今後の活動に繋げていきたい」、「佐賀での研修会が良いものになるよう頑張りたい」といった感想が聞かれ、農地法や農業者年金についての理解を深めるとともに、来年度の九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会に向けて機運を高める研修会となりました。

4. 地域の話し合いの活性化に向けたスキルアップセミナーについて

佐賀県農業経営課は、1月29日（月）に佐賀市で「地域の話し合いの活性化に向けたスキルアップセミナー」を開催しました。地域計画の策定に向けてこれから地域での話し合いが行われる予定ですが、担当者からは地域での話し合いの開催に不安の声が上がっていました。そこで、話し合いのスキルアップを図るため、農業会議の職員を講師として県の担当者を対象にセミナーを開催し39名が参加されました。

(1) 中山間地域での取り組みについて

佐賀県農政企画課 大坪一樹 氏

集落戦略の策定に係るこれまでの大坪氏の取り組みを報告。地域の話し合いに入るためには必ず集落のキーマンと打ち合わせをしてから実施することなどを話されました。

(2) 協議の場の活性化に向けたファシリテーター実践講座

佐賀県農業会議 武藤正則 氏

- アイスブレイク
- 1分間自己紹介
- 会場の雰囲気づくりの大事さ
- 座談会のルール
 - ・自分ばかり話ません
 - ・頭から否定しません
 - ・楽しい雰囲気を大切にします
 - ・参加者は対等です
 - ・参加者が気持ちよく話せるように協力します
- 「話し合いをうまく進めるためのアイデアについて考えよう」
- 発表、投票、アンケート記入

最初は堅い感じであったが、徐々に打ち解けていき、話し合いをうまく進めるためのアイデアがたくさん出ました。また、参加者からは「お菓子や飾りがある研修会は初めてだった」、「積極的に地域での話し合いに参加したい」という声がありました。

5. 市町農業委員会職員研修会を開催

～農業委員会サポートシステムを活用した目標地図作成～

佐賀県農業会議（会長：大園敏明）と佐賀県農業委員会職員協議会（会長：福岡緑）の共催で2月21日に「市町農業委員会職員研修会（目標地図作成）」を開催しました。

研修会は、地域計画の策定に係る目標地図の作成方法を習得するため、開催したもので、農業委員会職員等45名が参加されました。

最初に県農業経営課の江口大登氏より、佐賀県における地域計画の進捗状況について説明していただきました。この後、基山町産業振興課の松石龍太郎氏より、農地利用意向調査の結果を農業委員会サポートシステムへの取り込み方、それをもとに目標地図を作成する方法について解説およびデモ操作をいただきました。

参加者からは、「目標地図を作成するにあたって具体的な操作方法を知ることができた」、「農家の意向情報の入力や目標地図作成など農業委員会サポートシステムを活用し、作業を進めていきたい」などの感想が聞かれました。



《研修内容》

- (1)地域計画の進捗状況について
- (2)農家等の意向情報の農業委員会サポートシステムへの取り込み方法について
- (3)農業委員会サポートシステムの地図画面での目標地図作成について

6. 太良町農業委員会の取り組みについて

(1) 農業委員会の体制

- ・ 農業委員 8 名、農地利用最適化推進委員 10 名
(任期：令和 5 年 7 月 20 日～令和 8 年 7 月 19 日)
- ・ 事務局 4 名 (うち局長兼務、1 名会計年度任用職員)

(2) 太良町の特徴



「月の引力が見える町」太良町は、佐賀県の西南部に位置しており、西は標高 996m の多良岳を中心とした多良岳山系、東には干満の差が最大 6 m にもなる有明海に面しています。

たらみかんや竹崎カニは太良町を代表する特産物です。

(3) 農業委員会の取り組み

太良町では、1 地区に農業委員と農地利用最適化推進委員をそれぞれ 1 名ずつ割り当てています。担当地区では住民の農地の相談や、農地パトロールを行い遊休農地の発生防止に努めています。

また、太良町では委員全員にタブレットを配布しており、農地パトロールや農業委員会総会案件の農地調査に活用しています。

地域計画策定については、モデル地区で 2 月に第 1 回目の協議の場を開催しました。担当地区の委員も参加し、まずは地域農業の現状と課題、将来のあり方を話し合いました。まだ、模索しながらの活動ではありますが、来年度は地域での話し合いを本格的に行っていきます。



モデル地区での協議の場の様子

7. 佐賀県農業公社による園芸団地の整備・運営支援 〔農業公社のページ〕

佐賀県農業公社では、県下で展開されている「さが園芸 888 運動」の中で重点的に推進されている取組の一つである「大規模園芸団地の整備」の支援に取り組んでいます。

生産部会や市町、農協など地域の関係者で構成する地域園芸団地運営協議会が策定し、県の承認を受けた「さが園芸 888 運動園芸団地構想」に位置づけられた整備内容に基づき、当公社が各種補助事業を活用して、園芸ハウスを整備し、受益者にリースしています。

令和4年度から整備に着手し、令和4年度は白石町、本年度は武雄市を追加し、2地区で実施中です。

白石町では、令和4年度、規模拡大に取り組まれる2戸のいちごハウス(4棟、0.5ha)を整備・リースしました。2戸は、令和5年9月に「いちごさん」を定植され、現在、順調な生産・出荷を続けておられます。本年度は、トレーニングファームの修了予定者1戸のいちごハウスと、昨年度いちごハウスを整備された1戸の育苗施設を整備中です。



↑白石町園芸団地のいちごハウス
(高設栽培)



↑武雄市園芸団地のきゅうりハウス
(整備中)

武雄市では、本年度、規模拡大者1戸と、トレーニングファーム修了生2戸の計3戸のきゅうりハウスを整備中です。

引き続き、令和6年度も両地区において、新規就農者が受益者となるハウスの整備・リースを予定しています。

当公社では、園芸生産拡大の加速化に向け、園芸団地整備の支援に力を入れていきます。

8. 農業者年金の加入推進について

市町名	目標	加入状況	達成率
佐賀市	8	12	150%
唐津市	12	12	100%
鳥栖市	1	1	100%
多久市	1	1	100%
伊万里市	4	5	125%
武雄市	2	2	100%
鹿島市	3	2	67%
小城市	3	2	67%
嬉野市	2	0	0%
神埼市	2	3	150%
吉野ヶ里町	1	0	0%
基山町	1	0	0%
上峰町	1	0	0%
みやき町	1	2	200%
玄海町	2	4	200%
有田町	1	0	0%
大町町	1	0	0%
江北町	1	3	300%
白石町	7	7	100%
太良町	3	0	0%
計	57	56	98%

農業者年金加入者の声

保険料国庫補助はありがたい

佐賀・武雄市 原田 理香さん

【佐賀】武雄市の原田理香さん（39）、理香さん（39）夫妻は、27町のハウスでキュウリを栽培する新規就農者だ。2人とも前職は福祉関係。諭さんが大きな仕事を終えたのを機に、理香さんが興味を抱いていた農業を始めることを決意した。

2人は市やJAなどに足を運び、新規就農者の育成施設であるトレーニングファームの存在を知り、2018年に入校。2年間の研修を経て、20年に就農した。農業者年金については研修中に話を聞く機会があり、加入を考えた。就農から約一年半たった



「いずれは保険料を増額して、将来に備えながら節税のメリットも受けたい」と話す原田さん夫妻

ころ、農業委員から勧められたのをきっかけに、2人きつかけに、2人そろって政策支援加入した。「今、経営への投資にお金が掛かっているし、子どもたちも育ち盛りで保険料の国庫補助はとてありがたい」と2人は話す。

令和5年10月6日付 全国農業新聞

令和6年1月時点での農業者年金の新規加入状況は上表のとおりです。普段より加入推進活動ありがとうございます。

11. 全国農業新聞・全国農業図書を紹介

○全国農業新聞

市町	目標	部数	目標達成 まで	委員 未購読数
佐賀市	213	165	48	0
唐津市	143	99	44	24
鳥栖市	54	43	11	0
多久市	58	50	8	0
伊万里市	89	68	21	4
武雄市	93	65	28	0
鹿島市	93	70	23	0
小城市	73	48	25	25
嬉野市	75	50	25	3
神埼市	98	66	32	1

市町	目標	部数	目標達成 まで	委員 未購読数
吉野ヶ里町	44	32	12	7
基山町	28	17	11	1
上峰町	23	16	7	2
みやき町	44	45	達成	0
玄海町	36	26	10	0
有田町	43	32	11	3
大町町	22	15	7	0
江北町	46	39	7	1
白石町	76	54	22	8
太良町	53	41	12	0
農業会議	96	91	5	
	1,500	1132	368	79

3月時点での購読状況は上表のとおりです。

◎全国農業新聞について

- ・農業委員会系統組織が刊行する農業新聞。
農業分野全般を網羅した新聞で、特に農地や農業委員会について詳しく掲載。
- ・月4回・金曜日に刊行の週刊紙で、購読料は月額700円。
- ・PCやスマートフォンから閲覧できる電子版もある。月額500円。
(紙版を購読中の人は、手続きをすることで電子版を無料で利用可能。)
- ・最終頁から1頁開いたところにある「農業委員会ネットワーク通信」には、全国の農業委員会の活動事例が掲載。

↓

- 農業委員・推進委員・事務局にとって、農業委員会活動の参考になります。
- ・「農業簿記」や「青色申告」のオンライン講座を受けられる「スタディあぐり」等の新聞以外でのキャンペーンも実施中。

スタディあぐりについて→https://www.nca.or.jp/contact/study_agri.html

○全国農業図書

刊行一覧はこちら⇒ <https://www.nca.or.jp/tosho/>

農地法の解説 改訂第4版

法律の条文ごとに、政令、省令、事務処理基準、運用通知、事務処理要領などの基本的な通知だけでなく、過去の通達や照会への回答、判例等も引用し、順序立てて農地法の全体像を基礎から詳細まで分かりやすく説明した解説書です。

令和4年度以降の農地制度関係の改正に対応しています。

【税込 3,630 円】



農業者年金加入推進事例集 vol.16

農業者年金の加入推進で大きな成果をあげた農業委員会・JAの取り組み事例を紹介。農業者への制度周知や加入者を増やすノウハウ、現場の知恵や工夫など農業委員会・JAなどの先進事例には学ぶべき点が多くあります。

加入推進の最前線で活躍する加入推進部長をはじめ、農業委員会組織・JAグループのリーダーの方々が語る農業者年金の魅力、加入推進への思いを掲載。また、加入者のほか、年金で豊かな老後を過ごす受給者の喜びの声も紹介しています。

【税込 770 円】



農家の経営継承と納税猶予制度のあらまし

～相続税・贈与税～

農業においては、相続による農地の細分化を防止するとともに、農業後継者の育成、農業経営の継続を図るため、農地等の「相続税納税猶予制度」と「贈与税納税猶予制度」の特例措置が設けられています。本書は、納税猶予制度の基本的な仕組みを理解し、有効に活用できるように解説しています。

【税込 440 円】



10. 常設審議委員会結果（令和6年1・2月）

農地法第4条及び第5条の規定により県農業委員会ネットワーク機構(佐賀県農業会議)に意見を求められた案件について、常設審議委員会において審議されました。

第92回、第93回の件数及び面積については、以下のとおりです。

<農地法関係処理状況>

○審議件数

回数	開催日	区分	件数
第94回	1月15日	第4条	1
		第5条	11
第95回	2月15日	第4条	1
		第5条	5

○田畑別件数及び面積(m²)

※田・畑の混合案件があるため、件数の計が一致しない。

回数	開催日	区分	田		畑		計	
			件数	面積	件数	面積	件数	面積
第94回	1月15日	第4条	0	-	1	3,718	1	3,718
		第5条	10	170,190	6	29,764	11	199,954
第95回	2月15日	第4条	1	3,255	0	-	1	3,255
		第5条	4	18,697	1	3,232	5	21,929

11. 今後の行事予定

月	日	時間	場所	内容
3	15	13:30	佐賀総合庁舎	第96回常設審議委員会
	21	15:30	佐賀総合庁舎	第16回理事会
4	11	AM	グランデはがくれ	市町農業委員会事務局長会議
		PM		市町農業委員会新任職員研修会
	15	13:30	佐賀総合庁舎	第97回常設審議委員会

農業会議だより及び全国農業新聞の記事募集について

農業委員・推進委員、農業委員会事務局職員及び関係機関の皆様より、この農業会議だより及び全国農業新聞に掲載してほしい記事を募集しています。採用された方には粗品を進呈します。

問い合わせは、TEL：0952-20-1810 E-mail：sanoukai@sanoukai.jp

担当：佐賀県農業会議 竹下